令和2年度　基本施策評価シート

作成日	令和2年6月17日

基 本 施 策	A1　歴史・文化遺産を守り、活かし、伝えます			
施策の目的（対象と意図）	対　　象	意　　図		
	歴史文化遺産が	市民や事業者の理解のもとに、貴重な財産として、適切に保存・活用され、伝えられている。		
長崎市第四次総合計画［後期基本計画］ 基本施策掲載ページ		26ページ　～　27ページ		
基本施策主管課名	文化財課		所属長名	大賀　史郎
関 係 課 名	長崎学研究所・出島復元整備室・世界遺産推進室・被爆継承課			

基本施策の評価

Bc　目標をほぼ達成しているものの、目的達成に向けた課題の克服などがやや遅れている

判断理由

・基本施策の成果指標のすべてが95%以上の目標達成率となったことから、「B」とする。
・個別施策における12の成果指標のうち、100%以上の目標達成率が1つしかなく、目標達成率が95%未満の低いものもあるため「c」とする。

【評価判断に至った成果・効果及び問題点・その要因】
（1）市が所有する文化財の保存整備、また、民間が所有する文化財の保存整備に対する助成等を行ったことにより、指定等文化財の適切な保存・活用が図られた。
（2）「ながさき歴史の学校」において、「長崎学」「文化財」「近代化遺産」等をテーマにした7コースの講座、現場見学会、及び特別講座を実施したことにより、多くの市民が長崎の歴史・文化について学んだ。
（3）出島表門橋架橋工事現場から検出された旧出島橋の石材について、その価値を検証するとともに、旧出島橋を入場者への魅力のひとつとできるような今後の保存活用の検討を行うことができた。
（4）「明治日本の産業革命遺産　製鉄・製鋼、造船、石炭産業」及び「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」について、ガイド研修の実施やPR活動等により、各構成資産とその歴史の顕著で普遍的な価値を発信することができた。

成　果　指　標

※「⇧」は目標値を上回ることが望ましい指標、「⇩」は目標値を下回ることが望ましい指標

指　標　名	基準値（時期）	区　分		H28	H29	H30	R元	R2
文化財の指定・登録等件数[累計]	290件（26年度）	⇧	目標値	294件	296件	298件	300件	302件
			実績値	286件	288件	289件	290件	
			達成率	97.3%	97.3%	97.0%	96.7%	
主要な歴史文化施設※1を訪れたことがある市民の割合	59.1%（26年度）	⇧	目標値	60.1%	60.6%	61.1%	61.6%	62.1%
			実績値	67.8%	63.9%	64.9%	65.7%	
			達成率	112.8%	105.4%	106.2%	106.7%	

※1　計7施設：歴史民俗資料館、外海歴史民俗資料館、シーボルト記念館、サント・ドミンゴ教会跡資料館、歴史文化博物館（企画展を除く）、高島石炭資料館、軍艦島資料館（野母崎地区）

今後の取組方針

（1）文化財の適切な保存・活用・継承を図るため、必要な保存修理・整備を着実に実施する。
（2）「ながさき歴史の学校」における講座・講座内容の充実に努めるとともに、他団体と協力して周知を図り、長崎の歴史文化を多くの人に学んでもらう。
（3）出島史跡整備審議会の旧出島橋保存活用小委員会等において、さらに調査、検討を進め、出島の大きな魅力のひとつとなるような保存活用を目指す。
（4）世界遺産として適切に資産を保存管理し価値を後世に伝えるため、保全のための調査・整備を行うとともに、適切な周知啓発や受入れ態勢の充実を図る。

二次評価（施策評価会議による評価）

●基本施策の評価「Bc」については、所管評価のとおり。
●A1-1「文化財の活用」について、「入館者が全体的に減少している」という問題点の要因を「各施設の魅力を効果的に伝えられていないこと」としているので、どのような周知活動を行うのか今後の方針を示すと良い。
●A1-2「文化財サポーターの周知」について、U-サポを活用するなどして大学生にも広げていく必要がある。
●個別施策A1-3「出島の運営」について、今後は、対岸の県庁跡地との連携が必要になってくるので、次年度からは記載すること。

令和2年度　個別施策評価シート

個 別 施 策	A1-1　　文化財を市民の誇りとして保存・継承し、有効活用を図ります			
施策の目的（対象と意図）	対　　象	意　　図		
	文化財が	適切な技法で保存継承され、広く公開・活用が図られている。		
個別施策主管課名	文化財課		所属長名	大賀　史郎

令和元年度の取組概要

①文化財の保存・継承に関する計画
・平成30年度に引き続き「長崎原爆遺跡保存・整備委員会」を3回開催し、国指定史跡長崎原爆遺跡の保存、活用及び整備等に関する審議を行い、保存活用計画（平成30年度策定）に基づき整備基本計画を策定した。
②文化財の保存整備
・市が所有する国指定重要文化財2か所（旧長崎英国領事館、旧グラバー住宅）について保存修理を実施した。
・市が所有する国指定史跡1か所（高島北渓井坑跡）について保存整備を実施した。
・民間が所有する指定文化財（国1、県1、市2）において、所有者が実施する保存整備事業に対し補助を行った。
・伝統的建造物群保存地区内の民間が所有する伝統的建造物2か所について、所有者が実施する保存整備事業に対し補助を行った。
・開発事業に伴う遺跡の有無や確認のための調査及び記録保存のための発掘調査を行うなど、埋蔵文化財の保護を図った。
・指定文化財等（国2、その他1）について、3D記録調査を実施した。
③文化財の活用
・山手地区の東山手甲十三番館について、市民団体との協働による管理運営を実施した。
・市指定史跡である心田庵の一般公開（春・秋）を実施し、一般公開以外の期間には、市民への貸出を行った。
・市指定史跡である長崎（小島）養生所跡について、遺構等を展示する資料館の整備工事を行った。
④伝統芸能の保存継承
・長崎伝統芸能保存協議会による郷土芸能大会を開催した。

成　果　指　標

※「⇧」は目標値を上回ることが望ましい指標、「⇩」は目標値を下回ることが望ましい指標

指　標　名	基準値（時期）	区　分		H28	H29	H30	R元	R2
市内の文化財の1年当たりの保存整備件数	7件（26年度）	⇧	目標値	10	10	10	10	10
			実績値	12	9	12	9	
			達成率	120.0%	90.0%	120.0%	90.0%	
指定・登録されている有料文化施設※1への入場者数	43,709人（26年度）	⇧	目標値	45,500	46,400	47,300	48,200	49,200
			実績値	42,702	42,056	50,276	40,285	
			達成率	93.9%	90.6%	106.3%	83.6%	

※1 計7施設：須加五々道美術館、旧香港上海銀行長崎支店記念館、ド・ロ神父記念館、中の茶屋、心田庵、べっ甲工芸館、古写真埋蔵資料館

評価（成果と効果）

取組みによる成果	5年後にめざす姿に対する効果
①文化財の保存・継承に関する計画 ・国指定史跡長崎原爆遺跡の保存、活用及び整備等に関し、「長崎原爆遺跡保存・整備委員会」での審議において、専門的な指導・助言を受けながら保存活用計画に基づき、整備基本計画を策定した。	「長崎原爆遺跡保存・整備委員会」での審議を経て、国指定史跡長崎原爆遺跡を適切に整備していくための整備基本計画を策定したことで、今後、長崎原爆遺跡の整備を推進することが可能となった。
②文化財の保存整備 ・市が所有する文化財の保存整備を実施するとともに、民間が所有する文化財の保存整備に対し助成等を行った。 ・3D記録調査により、文化財の精細なデータを作成・保存することができた。	・指定等文化財を今後活用し、継承していくための適切な整備が図られた。 ・3D記録調査により作成された、文化財の精細なデータを活用することで今後の適切な整備及び活用につながる。
③文化財の活用 ・心田庵は一般公開を実施したことで、入場者が6,143人（春：14日間で1,739人、秋：17日間で4,404人）に上った。また、貸出についても、年間90件、1,423人の利用があった。 ・多言語（日本語・英語・中国語・韓国語・オランダ語）に対応し、児童にも理解しやすい展示を行う長崎（小島）養生所跡資料館を整備した。	・一般公開及び貸出により、年間を通して施設を利用することで、文化財の有効活用が図られ、市民に広く周知することができた。 ・長崎（小島）養生所等の歴史的価値を多くの人に分かり易く伝えることが可能となった。
④伝統芸能の保存継承 ・第44回となる郷土芸能大会を開催したこと（参加人数548人）により、郷土芸能の保存継承と周知啓発が図られた。	将来にわたり郷土芸能を保存継承していくための環境整備が図られた。

評価（問題点とその要因）

5年後にめざす姿に対する問題点	問題点の要因
②文化財の保存整備 ・市が所有する文化財建造物において、早期に保存修理を行うべき物件が複数あるが、全てに着手できない状況にある。	文化財建造物の保存修理には、相応の財源及び期間が必要であるため。
③文化財の活用 ・市が所有する有料文化施設は、前年に比べ入館者が全体的に減少している。	各施設の魅力を効果的に伝えられていないことに加え、新型コロナウイルス感染拡大による観光客等の減少が一因と考えられる。
④伝統芸能の保存継承 ・郷土芸能活動において、後継者が不足し、伝承を図ることが困難な状況にある。	地域行事に参加できる子どもの数が少なくなっている。

今後の取組方針

①文化財の保存・継承に関する計画
・国指定史跡長崎原爆遺跡整備基本計画を基に、引き続き「国指定史跡長崎原爆遺跡保存・整備委員会」の指導・助言を得ながら整備を実施していく。
②文化財の保存整備
・歴史文化基本構想に基づく文化財の保存・活用・継承を図るために計画的に保存修理・整備を実施する。
・文化財の3D調査を計画的に実施し、精細なデータの作成・保存を図るとともに、保存修理・整備に活用する。
③文化財の活用
・市が所有する伝統的建造物や史跡について、適切な保存管理を行うとともに、広く公開活用と周知を図っていく。
④伝統芸能の保存継承
・今後も長崎郷土芸能大会を開催し、郷土芸能の重要性を発信することで参加者の増加や後継者育成を図る。

個別施策進行管理事業シート

【個別施策コード：A1-1】

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	区分	平成30年度	令和元年度
1	（事業名） 【補助】文化財保存整備事業費補助金 伝統的建造物群保存地区 【文化財課】 （事業目的） 国選定重要伝統的建造物群保存地区の東山手・南山手伝統的建造物群保存地区における建造物等を保存整備し、後世に継承する。 （事業概要） 伝統的建造物群保存地区保存条例第11条の規定により、民間が所有する伝統的建造物及び環境物件の修理・復旧経費の一部を補助する。 【補助率】 ・伝統的建造物の修理：総事業費の2/3 ・環境物件の復旧：総事業費の1/2 ※補助金の財源内訳：国5/10、県2/10以内、市3/10以内	実施年度	継続	
		成果指標	整備が必要とされる物件の箇所数	
		目標値	2 箇所	2 箇所
		実績値	2 箇所	2 箇所
		達成率	100.0 %	100.0 %
		決算（見込）額	372,746,000 円	117,627,000 円
		成果指標及び目標値の説明	伝統的建造物群保存地区（伝建地区）内における建造物等の保存のため、整備が必要とされる物件の箇所数を成果指標とし、平成30年度に整備予定であった物件2箇所を目標値とした。	伝統的建造物群保存地区（伝建地区）内における建造物等の保存のため、整備が必要とされる物件の箇所数を成果指標とし、令和元年度に整備予定であった物件2箇所を目標値とした。
		取組実績、成果・課題等	（取組実績） 伝統的建造物の保存修理 ・活水学院本館 346,891千円 ・マリア園 25,855千円 （成果・課題等） 伝建地区内の伝統的建造物の保存修理・整備が進み、後世への継承が図られた。	（取組実績） 伝統的建造物の保存修理 ・活水学院本館 80,060千円 ・マリア園 37,567千円 （成果・課題等） 伝建地区内の伝統的建造物の保存修理・整備が進み、後世への継承が図られた。
2	（事業名） 【単独】文化財保存整備事業費補助金 各種文化財 【文化財課】 （事業目的） 指定文化財の保存修理等を所有者において実施する補助対象事業に対し、文化財保護条例第8条の規定により、修理費用の一部を補助する。 （事業概要） 指定文化財の保存修理・整備事業に対して、補助金を交付する。 【補助率】 （国指定文化財）国5/10以内、県1/6以内、市1.25/10以内 （県指定文化財）県5/10以内、市2.5/10以内 （市指定文化財）市5/10以内	実施年度	継続	
		成果指標	整備が必要とされる物件の箇所数	
		目標値	7 箇所	5 箇所
		総事業進捗率	7 箇所	4 箇所
		達成率	100.0 %	80.0 %
		決算（見込）額	35,496,000 円	5,163,000 円
		成果指標及び目標値の説明	市内における文化財の保存のため、保存修理・整備が必要とされる物件の箇所数を成果指標とし、平成30年度に整備予定であった物件7箇所を目標値とした。	市内における文化財の保存のため、保存修理・整備が必要とされる物件の箇所数を成果指標とし、令和元年度に整備予定であった物件5箇所を目標値とした。
		取組実績、成果・課題等	（取組実績） 補助金の交付 ・国宝大浦天主堂 交付額 3,331千円 ・国指定史跡小菅修船場跡 交付額 862千円 ・県指定有形文化財晧臺寺山門・仁王門・大仏殿 交付額 2,775千円 ・市指定有形文化財福建会館 交付額 25,505千円 ・市指定史跡深堀鍋島家墓地 交付額 1,775千円 ・市指定天然記念物滑石大神宮社叢 交付額 941千円 ・市指定史跡唐通事林・官梅家墓地 交付額 307千円 （成果・課題等） 文化財の保存修理・整備が完了したことにより、文化財の保護が図られた。	（取組実績） 補助金の交付 ・国指定史跡小菅修船場跡 交付額 1,910千円 ・県指定史跡花月 交付額 1,969千円 ・市指定史跡深堀鍋島家墓地 交付額 1,026千円 ・市指定天然記念物川原住吉神社のクスノキ 交付額 258千円 （成果・課題等） 文化財の保存修理・整備が完了したことにより、文化財の保護が図られた。

令和2年度　個別施策評価シート

個 別 施 策	A1-2　　歴史・文化遺産に対する市民意識を高め、国内外に向けて発信します			
施策の目的 （対象と意図）	対　　象	意　　図		
	長崎の歴史文化遺産が	市民に関心を持たれ、学ばれ、国内外に発信されている。		
個別施策主管課名	文化財課		所属長名	大賀　史郎

令和元年度の取組概要

①歴史文化施設での取組み
・シーボルト記念館では、企画展を1回、特別展を1回行うとともに、シーボルト学習会を開催した。歴史民俗資料館では、企画展を5回行い、小・中学校に加え老人福祉施設等へも館の周知を図って来館を促した。
②歴史や文化遺産の情報を発信し、理解を深める取組み
・誰もが気軽に長崎の歴史を学ぶことができる「ながさき歴史の学校」において、「長崎学」「文化財」「近代化遺産」等をテーマにした7コースの講座を実施した。また、保存修理中の国指定重要文化財旧長崎英国領事館において、地元自治会及び一般市民を対象にそれぞれ現場見学会を行った。
・文化財サポーター活動として、国指定史跡シーボルト宅跡の除草・清掃や、文化財めぐり「重要文化財旧長崎英国領事館修理現場見学会」の運営補助などを行った。
・歴史文化博物館では、長崎学や古文書についての定例講座のほか、れきぶんこどもクラブなどの各年代別プログラム等、歴史文化講座を開催した。
・長崎学研究所を事務局とした長崎学ネットワーク会議において、大学・博物館・郷土史研究団体などとネットワークを構築し、会議の構成団体を核とした公開学習会を開催した。
・長崎学研究所による研究成果を発信するために、紀要『長崎学』第4号を刊行した。
・長崎学の研究成果を報告するための「長崎学研究発表会」及び将来の長崎学研究の人材育成のため、市内の小学校を対象に「長崎学児童研究コンクール」を開催した。
・市内にある各種文化財（5ヶ所）において、説明板の設置や改修を行った。

成　果　指　標

※「⇧」は目標値を上回ることが望ましい指標、「⇩」は目標値を下回ることが望ましい指標

指　標　名	基準値（時期）	区　分		H28	H29	H30	R元	R2
歴史文化博物館、歴史民俗資料館等の常設・企画展の入場者数	233,258人（26年度）	⇧	目標値	266,000	266,600	268,000	269,000	270,000
			実績値	195,128	352,443	207,721	189,543	
			達成率	73.4%	132.2%	77.5%	70.5%	
【補助代替指標】歴史文化博物館、歴史民俗資料館等の常設展の入場者数	128,569人（26年度）	⇧	目標値	166,000	166,600	168,000	169,000	170,000
			実績値	118,491	123,427	134,287	119,060	
			達成率	71.4%	74.1%	79.9%	70.4%	
歴史文化講座参加人数	3,102人（26年度）	⇧	目標値	3,262	3,342	3,422	3,502	3,582
			実績値	3,993	3,557	4,132	3,246	
			達成率	122.4%	106.4%	120.7%	92.7%	

※歴史文化博物館の企画展は、施策の目的と合致しない内容の催しも含まれるため、補助代替指標として常設展の入場者数を記載した。

評価（成果と効果）

取組みによる成果	5年後にめざす姿に対する効果
①歴史文化施設での取組み ・歴史民俗資料館において、小・中学校は31校が社会科見学で訪れ、老人福祉施設等は4施設7回の利用があった。	多様な世代・団体に利用されるようになり、市民の歴史文化に対する関心を高めるきっかけとなっている。
②歴史や文化遺産の情報を発信し、理解を深める取組み ・文化財サポーター活動を6回実施し、延57人が参加した。 ・歴史文化博物館での歴史文化講座には、延1,690人、ながさき歴史の学校には、延1,021人が参加した。 ・平成28年度より開設している長崎学研究所において、公開学習会(開催回数5回、参加者数515人)や研究発表会の開催、紀要の刊行を行った。	・文化財サポーター活動を通じ、文化財の保護に関する市民協働意識の高揚が図られた。 ・歴史文化博物館での歴史文化講座及びながさき歴史の学校に多くの市民が参加したことにより、長崎の歴史・文化に対する理解度向上が図られた。 ・長崎学研究所における公開学習会や研究発表会の開催、紀要の刊行により、市民への長崎学の普及・啓発が図られた。

評価（問題点とその要因）

5年後にめざす姿に対する問題点	問題点の要因
①歴史文化施設での取組み ・入館者が年々減少している施設がある。	効果的な情報発信ができていないこと、また、常設展示の見直しが十分でないことなどが考えられる。
②歴史や文化遺産の情報を発信し、理解を深める取組み ・「ながさき歴史の学校」において、10代から80代まで延1,021人の講座参加があったが、20代から40代の受講者が比較的少ない。	特に若い世代に対しては、講座に関する周知効果が十分でなく、積極的な参加につながっていないと思われる。

今後の取組方針

①歴史文化施設での取組み
・効果的な情報発信の手法や常設展示の見直し等について検討を行い、周知を図りながら、入館者の増加を目指す。
②歴史や文化遺産の情報を発信し、理解を深める取組み
・「ながさき歴史の学校」の講座内容を充実させ、長崎の歴史文化を学ぶ人の裾野を広げる。幅広い年齢層を取り込むために、他団体と協力し、周知を図る。
・「ながさき歴史の学校」の修了者を文化財サポーターとして採用するなど、引き続き文化財サポーターの育成に取り組む。
・長崎学研究所での研究成果を、公開学習会や研究発表会、研究紀要の刊行により市民に還元する。
・観光と連携したホームページの活用など、市民等に向けた情報発信を進める。

個別施策進行管理事業シート

【個別施策コード：A1-2】

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	区分	平成30年度	令和元年度
1	（事業名） ながさき歴史の学校費 【文化財課】 （事業目的） 長崎の歴史や文化について、もっと知りたい、教えたい、いろいろな人と交流したいという市民や市民団体等がつながる仕組み（ネットワーク）を構築し、だれもが気軽に集い、お互いに教え合える学びの場を市民との協働によって創出する。 （事業概要） 長崎学、文化財、世界遺産等に関する講座の提供により、市民に長崎の歴史・文化財に親しんでもらう。	実施年度	継続	
		成果指標	講座の参加人数	
		目標値	466 人	331 人
		実績値	442 人	283 人
		達成率	94.8 %	85.5 %
		決算（見込）額	534,206 円	548,587 円
		成果指標及び目標値の説明	より多くの市民に長崎の歴史に親しんでもらうため、「ながさき歴史の学校」の講座の参加人数を成果指標とし、講座の定員を目標値とした。	
		取組実績、成果・課題等	（取組実績） ・「ながさき歴史の学校」（7コース及び特別講座等、定員466人、参加人数429人） （成果・課題等） 幅広い世代への文化財普及啓発などを課題とした「ながさき歴史の学校」を開設し、長崎学、文化財、近代化遺産等をテーマにしたコース・講座を開催した。 平成30年度は特別講座等の実施により大幅に定員が増えたが、概ね達成することができた。	（取組実績） ・「ながさき歴史の学校」（7コース及び文化財めぐり、定員331人、参加人数283人） （成果・課題等） 幅広い世代への文化財普及啓発などを課題とした「ながさき歴史の学校」を開設し、長崎学、文化財、近代化遺産等をテーマにしたコース・講座を開催した。 令和元年度は特別講座を実施しなかったこと等により前年度に比べ受講人数は減少したものの、20歳代～80歳代まで幅広い世代が受講した。
2	（事業名） 長崎学調査研究費 【長崎学研究所】 （事業目的） 長崎学の振興と継承、そのための人材育成 （事業概要） 調査研究事業・普及啓発事業・後継者育成事業の3本を柱に、大学や長崎市内の歴史研究団体とのネットワーク構築や公開学習会の実施、小学生を対象にした長崎学児童研究コンクールを実施する。また、長崎学の研究成果を紀要『長崎学』にまとめ刊行することで内外に広く発信する。	実施年度	継続	
		成果指標	長崎学に関する研究業績数	
		目標値	5 本	5 本
		総事業進捗率	7 本	9 本
		達成率	140.0 %	180.0 %
		決算（見込）額	4,308,007 円	4,286,296 円
		成果指標及び目標値の説明	長崎学に関する研究内容を、論文等により公表することにより、長崎学の振興や人材育成につながると考えられることから、長崎学に関する研究業績数を成果指標とし、紀要『長崎学』の論文等掲載見込み数を目標値とした。	
		取組実績、成果・課題等	（取組実績） ・紀要『長崎学』の論文等掲載数 論文4本、史料紹介1本、講演録2本 ・公開学習会の開催（5回） ・長崎学児童研究コンクールの開催 （成果・課題等） 長崎学の振興を目的として紀要『長崎学』第3号を発刊した。この紀要に長崎学関連の論文、史料紹介、講演録7本を掲載し、成果指標の研究業績数を達成できた。 このほか、公開学習会や外部での講演、長崎学関係の史料調査、長崎学児童研究コンクールなどにも力を入れ長崎学研究所の使命である、普及啓発活動、調査研究活動にも力を入れることができた。	（取組実績） ・紀要『長崎学』の論文等掲載数、外部団体発行物への掲載 論文6本、研究ノート2本、図録1本 ・公開学習会の開催（5回） ・長崎学児童研究コンクールの開催 （成果・課題等） 長崎学の振興を目的として紀要『長崎学』第4号を発刊した。この紀要及び外部発刊物に長崎学関連の論文、研究ノートなど9本を掲載し、成果指標の研究業績数を達成できた。 このほか、公開学習会や外部での講演、長崎学関係の史料調査、長崎学児童研究コンクールなども実施し、長崎学研究所の使命である、普及啓発活動、調査研究活動にも力を入れることができた。

令和2年度　個別施策評価シート

個 別 施 策	A1-3　　史跡「出島和蘭商館跡」の復元整備を推進し、まちづくりに活かします			
施策の目的 （対象と意図）	対　　象	意　　図		
	出島が	19世紀初頭の出島の姿への復元が進み、本質的な価値を高め、まちづくり等に積極的な活用が図られている。		
個別施策主管課名	出島復元整備室		所属長名	柴田　恭郎

令和元年度の取組概要

①旧出島橋の調査
・出島表門橋架橋工事現場から検出された旧出島橋の石材について、その価値を検証するとともに、今後の保存活用についての検討を行った。
②出島の運営
・各種イベントの実施及び誘致を行った。（出島オラニエフェスティバル、教育委員会主催のALTを活用した小中学生を対象とした英語体験等）
・官民連携でイルミネーションの輪を拡げる、「長崎ベイサイド・テラス」に参画し、民間施設と連携して夜景観光の推進を図った。
・出島企画展「ケンディ展」及び「ターフル料理展」を開催し、出島の価値や魅力の発信を行った。
・夏休み期間や、ランタンフェスティバル開催期間にあわせ、西洋音楽の鑑賞型無料イベント「感激の出島」を開催した。
・4月末から2月上旬までの第2、第4の土曜日に「長崎検番in出島」を開催した。
・出島ガイドによる「出島ミニツアー」や、歴史スタッフによる「出島タイムトリップビューツアー」を実施した。
・来場者アンケート、スタンプラリーを実施した。

※オラニエ・フェスティバル…鎖国時代から日蘭交流の舞台であった出島において、日本とオランダの祝日が続く4月27日（オランダ国王の誕生日）から4月29日（昭和の日）の3日間、日蘭交流をテーマに開催するお祭り。「オラニエ」とはオランダ語で「オレンジ」という意味。

成　果　指　標

※「⇧」は目標値を上回ることが望ましい指標、「⇩」は目標値を下回ることが望ましい指標

指　標　名	基準値（時期）	区　分		H28	H29	H30	R元	R2
出島への入場者数	434,910人（26年度）	⇧	目標値	500,000	550,000	610,000	580,000	600,000
			実績値	416,999	520,701	532,013	459,147	
			達成率	83.4%	94.7%	87.2%	79.2%	
出島への入場者数（外国人）	31,992人（26年度）	⇧	目標値	39,000	43,000	48,000	53,000	60,000
			実績値	43,359	49,343	38,714	34,586	
			達成率	111.2%	114.8%	80.7%	65.3%	
出島への入場者数（長崎市民）	7,469人（26年度）	⇧	目標値	8,600	9,000	9,400	9,800	10,000
			実績値	16,692	25,860	14,181	8,311	
			達成率	194.1%	287.3%	150.9%	84.8%	

※「出島への入場者数」の目標値について、平成31年度は、平成29年11月の出島表門橋完成による集客効果が一定なくなることにより減少している。

評価（成果と効果）

取組みによる成果	5年後にめざす姿に対する効果
①旧出島橋の調査 ・旧出島橋の本質的な価値を確認でき、また、再度組立てて展示を行うなどのいくつかの保存活用方法の検討が進んだ。	出島復元建造物や出島表門橋とともに、旧出島橋を入場者への魅力のひとつとできるような活用の検討を行うことができた。
②出島の運営 ・時機をとらえた市民向けのイベントやボランティアガイド及び歴史スタッフによる展示解説等を実施し、出島の価値や魅力の発信が進んだ。	観光客によるSNSを活用した口コミの情報発信につながった。 また、出島に関連するイベントや企画展の開催により、出島とゆかりの深い歴史の発信ができた。

評価（問題点とその要因）

5年後にめざす姿に対する問題点	問題点の要因
①旧出島橋の調査 ・今後、どのような形で保存活用していくのかの具体的な決定に至っていない。	現在はまだ調査、検討の途中段階であるため。
②出島の運営 ・入場者数が前年度よりも14%減少し、令和元年度の目標値580,000人を達成できなかった。（達成率79.2%）	周辺諸外国との国際情勢に左右されることや、新型コロナウイルス感染拡大等の影響のため。

今後の取組方針

①旧出島橋の調査
・出島史跡整備審議会の中の旧出島橋保存活用小委員会等において、さらに調査、検討を進め、出島の大きな魅力のひとつとなるような保存活用を目指す。

②出島の運営
・施設の管理運営については令和2年度から指定管理者制度を導入しており、民間のノウハウを活かした情報発信やPR、新型コロナウイルス感染症予防対策を講じながら地域に密着したイベントの開催実施等により集客を図る。
また、展示や出島の復元業務等については引き続き市が行っていくことから、市と指定管理者が連携し、出島の価値や魅力の発信、出島に関する情報発信を行い、入場者数の増加を図る。

個別施策進行管理事業シート

【個別施策コード：A1-3】

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	区分	平成30年度	令和元年度
1	（事業名） 出島運営費 【出島復元整備室】 （事業目的） 国指定史跡「出島和蘭商館跡」の適正な保存管理を行うとともに、来場者への安全を配慮しながら、歴史と文化に親しむことができるよう、入場者へのサービス向上を図る。 （事業概要） 毎年出島の歴史に関する企画展を開催している。また、来場者サービスとして出島ガイドを配置し、出島内の観光案内や体験展示の支援を行っている。	実施年度	継続	
		成果指標	入場者数	
		目標値	610,000 人	580,000 人
		実績値	532,013 人	459,147 人
		達成率	87.2 %	79.2 %
		決算（見込）額	132,461,303 円	140,791,389 円
		成果指標及び目標値の説明	出島の運営に関して最も重要となる入場者数を成果指標とした。 目標値は第四次総合計画における入場者数の目標値を設定した。 令和2年度の目標入場者数を600,000人に設定しており、平成30年度は610,000人としている。	出島の運営に関して最も重要となる入場者数を成果指標とした。 目標値は第四次総合計画における入場者数の目標値を設定した。 令和2年度の目標入場者数を600,000人に設定しており、令和元年度は580,000人としている。
		取組実績、成果・課題等	（取組実績） 市民等のイベント・出店を積極的に誘致し、来場者サービスの向上を行った。 （成果・課題等） 前年度と比較し、入場者数が2.2%、出島入場料が4.5%増加した。 【参考】 ・外国人入場者数…38,714人	（取組実績） 市民等のイベント・出店を積極的に誘致し、来場者サービスの向上を行った。 （成果・課題等） 前年度と比較し、入場者数が12%、出島入場料が12%減少した。 【参考】 ・外国人入場者数…34,586人

令和2年度　個別施策評価シート

個 別 施 策	A1-4　　世界遺産の登録を実現し、その価値を世界に発信します			
施策の目的（対象と意図）	対　　象	意　　図		
	構成資産が	世界遺産として適切な保存・活用の仕組みが構築され、世界中の人々に知られている。		
個別施策主管課名	世界遺産室		所属長名	濱本　和彦

令和元年度の取組概要

①「明治日本の産業革命遺産　製鉄・製鋼、造船、石炭産業」（以下「産業革命遺産」という。）の取組み
・端島炭坑において、遺構の現況を記録するため島全体の3D計測を実施した。
・高島炭鉱北渓井坑跡において、緩衝地帯内にある松の松くい虫対策として、松枯れした樹木を伐採した。
・市内で活動するガイドや関係者を対象にガイド研修会を実施した。
・パンフレット等の作成・配布や出前講座を4回開催するなど世界遺産価値の理解促進や周知啓発を行った。
②「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」（以下「潜伏キリシタン関連遺産」という。）の取組み
・世界遺産登録1周年記念のPR活動やローマ法王の謁見のため、フランス及びバチカン市国を訪問した。
・構成資産及び関連資産を適切に保存するための記録調査を実施した。
・大平作業場跡や石積み建物において、所有者が実施する重要文化的景観の重要な構成要素の整備や修理に対して昨年度に引き続きアドバイスや補助を行った。
・構成資産の説明板や重要文化的景観「長崎市外海の石積集落景観」に追加選定された大野地区に説明板を設置するとともに、大野地区の歩行者ルートの修繕を行った。
・パンフレット等の作成・配布や出前講座を4回開催するなど世界遺産価値の理解促進や周知啓発を行った。

成　果　指　標

※「⇧」は目標値を上回ることが望ましい指標、「⇩」は目標値を下回ることが望ましい指標

指　標　名	基準値（時期）	区　分		H28	H29	H30	R元	R2
グラバー園の入園者数	1,038,202人（26年度）	⇧	目標値	1,090,000	1,110,000	1,130,000	1,140,000	1,170,000
			実績値	987,822	996,075	944,780	769,218	
			達成率	90.6%	89.7%	83.6%	67.5%	
端島（軍艦島）の上陸者数	191,616人（26年度）	⇧	目標値	215,000	226,000	238,000	249,000	261,000
			実績値	265,555	291,665	181,267	124,935	
			達成率	123.5%	129.1%	76.2%	50.2%	
外海歴史民俗資料館の入館者数	9,912人（26年度）	⇧	目標値	10,300	10,500	11,500	12,100	12,700
			実績値	11,376	13,595	21,749	15,519	
			達成率	110.4%	129.5%	189.1%	128.3%	
大浦天主堂の拝観者数	555,395人（26年度）	⇧	目標値	585,600	594,400	603,200	612,000	625,300
			実績値	446,957	420,216	469,901	404,986	
			達成率	76.3%	70.7%	77.9%	66.2%	

※大浦天主堂の拝観料の推移（大人）H27.7.1～、300円→600円、H30.4.1～、600円→1,000円（キリシタン博物館開館）

評価（成果と効果）

取組みによる成果	5年後にめざす姿に対する効果
①「産業革命遺産」の取組み ・端島炭坑の遺構の現況を3D計測で測量したことにより、遺構の劣化・沈下・傾斜を把握するための基礎資料を作成することができた。 ・高島炭鉱北渓井坑跡周辺の松くい虫対策を実施したことにより、現在残っている松の保全が図られた。 ・ガイド研修会に46名のガイド関係者が参加し、市民協働の醸成やガイドのスキルアップが図られた。 ・パンフレットの作成・配布や出前講座を実施したことにより、世界遺産価値の理解度向上や世界遺産への関心を高めることができた。	・今後の保存整備事業を進めるうえでの基礎資料が作成できたことにより、今後、更なる分析が可能となり、適切な史跡の保存管理が図られた。 ・松くい虫対策を実施したことにより、周辺環境の改善とともに緩衝地帯内の良好な景観の保全につながった。 ・ガイド研修会により、世界遺産価値の理解や周知啓発が図られ、来訪者の受入能力の向上につながった。 ・出前講座等を通して、市民への世界遺産価値の理解促進や周知啓発が図られた。
②「潜伏キリシタン関連遺産」の取組み ・世界遺産登録1周年記念のPR活動においては、ユネスコ関係者や現地メディア、旅行会社など約150名が参加し、本遺産をはじめとする長崎の魅力をPRした。 ・モニタリングのための基礎資料となる平面図を作成したことにより、構成資産及び関連資産の適切な保存管理のための調査報告書をとりまとめた。 ・大平作業場跡や石積み建物の整備・修理について所有者へアドバイスや補助を行ったことにより、資産の保全が図られた。 ・説明板の設置や歩行者ルートの修繕により、来訪者の受入態勢の充実を図ることができた。 ・パンフレットの作成・配布や出前講座を実施したことにより、世界遺産価値の理解度向上や世界遺産への関心を高めることができた。	・PR活動等により、各構成資産とその世界遺産の価値を世界中に発信することができた。また、地域経済の活性化や交流人口の増加に寄与することができた。 ・今後の保存整備事業を進めるうえでの基礎資料を作成したことにより、資産の適切な保存管理が可能となった。 ・資産を所有する個人や民間団体に保全のアドバイスや補助をすることで、資産を後世に残すための適切な保全が図られた。 ・説明板の設置や歩行者ルートの修繕により世界遺産価値の理解促進や来訪者の利便性向上に寄与した。 ・出前講座等を通して、市民への世界遺産価値の理解促進や周知啓発が図られた。

評価（問題点とその要因）

5年後にめざす姿に対する問題点	問題点の要因
①「産業革命遺産」の取組み ・端島炭坑は、劣化が著しい建物や護岸について具体的な保存工法が決まっていない。 ・ガイドの高齢化が顕著であり、将来的に人材不足が見込まれる。	・閉山から45年以上が経過し、遺構の劣化が著しく進行しているが、世界でも類を見ない劣化状況のコンクリート構造物であるため、保存方法が確立していない。また、特に護岸については台風等による自然災害への対応も含めて考えなければならないため、工法や対策の確立が困難になっている。 ・ガイド従事者が固定化されており、新規ガイドの参入による新陳代謝が図られていないため。
②「潜伏キリシタン関連遺産」の取組み ・構成資産や関連資産を訪問する際、ルートや関連資産の場所がわかりにくい。 ・構成資産内や関連資産には個人や民間団体が所有している遺構が多く所在しており、所有者に適切な保存を促す必要がある。	・外海の出津集落及び大野集落においては、山の斜面や集落の奥に関連資産が点在しているため。 ・保存管理するための補助金を活用しても自己負担があることから、所有者が申請をしにくい要因となっている。

今後の取組方針

①「産業革命遺産」の取組み
・世界遺産として適切に構成資産を保全し価値を後世に伝えるため、保全のための調査や整備を実施する。
・劣化が著しいコンクリート構造物の具体的な保存工法について、大学等の研究機関と連携を図りながら検証を行う。
・関係8県11市と連携して、理解促進及び認知度向上のための情報発信を行う。また、市民ガイドの研修を実施し、ガイドの資質向上とガイド活動の充実を図ると共に、来訪者の受入れ態勢の充実を図る。
②「潜伏キリシタン関連遺産」の取組み
・来訪者に分かりやすい説明板の設置や歩行者ルートの整備など更なる受け入れ態勢の充実を図る。
・資産の適切な保存管理を図るため、構成資産及び関連資産の保存にかかるモニタリングや資産の保全を目的とした補助制度の周知を図る。
・更なる認知度の向上を目指し、パンフレット・回遊マップの活用や出前講座を実施するとともに関係自治体と連携した周知啓発等を行う。

個別施策進行管理事業シート

【個別施策コード：A1-4】

<table>
<tr><th>No.</th><th>事業名・担当課・事業目的・概要</th><th>区分</th><th>平成30年度</th><th>令和元年度</th></tr>
<tr><td rowspan="9">1</td><td rowspan="9">（事業名）
「明治日本の産業革命遺産」推進費

【世界遺産室】

（事業目的）
世界遺産は、未来の世代に引き継いでいくべき人類共通の財産であるため、構成資産を適切に保存し、世界遺産価値の理解促進を図る。

（事業概要）
構成資産である高島炭鉱（高島炭坑・端島炭坑）の保存管理を万全なものとするための計画策定や、関係自治体と連携して周知啓発等を行い、世界遺産価値の理解促進を進める。</td><td>実施年度</td><td colspan="2">継続</td></tr>
<tr><td>成果指標</td><td colspan="2">グラバー園の入園者数</td></tr>
<tr><td>目標値</td><td>1,130,000　人</td><td>1,140,000　人</td></tr>
<tr><td>実績値</td><td>944,780　人</td><td>769,218　人</td></tr>
<tr><td>達成率</td><td>83.6　%</td><td>67.5　%</td></tr>
<tr><td>決算（見込）額</td><td>15,804,062　円</td><td>9,347,360　円</td></tr>
<tr><td>成果指標及び目標値の説明</td><td colspan="2">・グラバー園内に市内構成資産に関するインフォメーション機能を設置しており、グラバー園の入園者数の増が、構成資産の認知度向上に寄与すると考えられることから、グラバー園の入場者数を成果指標とした。

・各年度末の実績により把握する。
・世界遺産登録の効果等の要素を踏まえて設定された観光客数の伸び率（平成32年までの観光客数の目標から算出）をもとに目標値を設定する。</td></tr>
<tr><td>取組実績、成果・課題等</td><td>（取組実績）
・「史跡 高島炭鉱跡」に関する各種調査を「総括調査報告書」として取りまとめ、文化庁、県内市町図書館、研究機関などに配布した。
・「2つの世界遺産ガイドマップ」の広報ながさきへの折り込みや他の構成資産の自治体とともに展示会へ出展した。

（成果・課題等）
・「総括調査報告書」として取りまとめ、配布したことにより、調査結果を公開し、補助金を活用した事業を周知することができた。
・「2つの世界遺産があるまち」の実現の周知と2つの世界遺産の周遊を促すことができた。</td><td>（取組実績）
・端島炭坑の遺構の現況を記録するため島全体の3D計測を実施した。
・ガイド研修会の実施、パンフレット等の作成・配布や出前講座を開催した。

（成果・課題等）
・端島炭坑の遺構を3D計測で測量したことにより、遺構の現況を把握するための基礎資料を作成することができ、適切な史跡の保存管理が図られた。
・ガイド研修会、パンフレットの作成・配布や出前講座を実施したことにより、世界遺産価値の理解度向上や世界遺産への関心を高めることができた。</td></tr>
</table>

個別施策進行管理事業シート

【個別施策コード：A1-4】

<table>
<tr><th>No.</th><th>事業名・担当課・事業目的・概要</th><th>区分</th><th>平成30年度</th><th>令和元年度</th></tr>
<tr><td rowspan="9">2</td><td rowspan="9">（事業名）
「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」推進費

【世界遺産室】

（事業目的）
歴史的文化的遺産を活用したまちづくりに資するとともに、交流人口の拡大による地域の活性化を図る。

（事業概要）
構成資産及び関連資産を適切に保存するための調査や整備を行うとともに、来訪者受入態勢の充実、周知啓発等の実施により機運の醸成を図る。</td><td>実施年度</td><td colspan="2">継続</td></tr>
<tr><td>成果指標</td><td colspan="2">外海歴史民俗資料館の入館者数</td></tr>
<tr><td>目標値</td><td>11,500 人</td><td>12,100 人</td></tr>
<tr><td>総事業進捗率</td><td>21,749 人</td><td>15,519 人</td></tr>
<tr><td>達成率</td><td>189.1 %</td><td>128.3 %</td></tr>
<tr><td>決算（見込）額</td><td>32,325,088 円</td><td>11,006,657 円</td></tr>
<tr><td>成果指標及び目標値の説明</td><td colspan="2">・外海歴史民俗資料館に「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の展示を行っており、外海歴史民俗資料館の入館者数の増が構成資産の認知度向上に寄与すると考えられることから、外海歴史民俗資料館の入館者数を成果指標とした。
・各年度末の実績により把握する。
・平成27年度から平成29年度までは毎年度２%増を、世界遺産登録が見込まれる平成30年度は10%増、平成31年度以降は毎年度５%増を目標とする。</td></tr>
<tr><td>取組実績、成果・課題等</td><td>（取組実績）
・第42回世界遺産委員会に出席するとともに、世界遺産登録記念事業として登録記念セレモニー及び講演会を開催した。
・世界遺産登録記念銘板・説明板、構成資産への誘導サインを設置するとともに、外海歴史民俗資料館の展示を追加した。

（成果・課題等）
・平成30年7月に世界文化遺産に登録された。また、登録記念事業を実施したことにより、世界遺産登録の周知が図られた。
・世界遺産登録記念銘板・説明板、構成資産への誘導サインを設置や外海歴史民俗資料館の展示を追加したことにより、理解促進と来訪者の受入態勢の充実を図ることができた。</td><td>（取組実績）
・世界遺産登録1周年記念PR活動及びローマ法王謁見のためフランス及びバチカン市国を訪問した。
・説明板の設置や大野地区の歩行者ルートの修繕を行った。

（成果・課題等）
・PR活動等により、各構成資産とその世界遺産価値を世界中に発信するとともに、地域経済の活性化や交流人口の増加に寄与することができた。
・説明板の設置や歩行者ルートの修繕により、世界遺産価値の理解促進と来訪者の受入態勢の充実を図ることができた。</td></tr>
</table>